



理事長 **岡部 憲昭**

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は遠賀信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

ディスクロージャー誌『ONSHIN REPORT 2016』が完成しました。遠賀信用金庫の業績や活動について皆様のご理解を一層深めていただきますよう、できる限りわかりやすく作成しました。今回もかわいいメチャくんファミリーが随所に登場しますので、ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、わが国の経済は、アベノミクスの浸透により徐々に明るさを見せつつあるものの、アメリカの金融政策の転換、欧州経済の混迷、中国・新興国市場の成長の鈍化および原油価格など商品市況の低迷等により足踏み状態と言わざるを得ません。そのような中、日本銀行は本年2月16日からマイナス金利政策を実施していますが、先行きの不確実性はさらに増大しています。

遠賀信用金庫は、「21世紀に相応しい協同組織金融機関を目指して、地域の中小企業の発展と個人の生活の向上に寄与することに全力を尽くし、その使命を全うする」という経営理念の下、地域に貢献し、地域と共に歩む町内会的金融機関として、様々な取組みを展開してまいりました。

地方創生への取組みとしまして、昨年2月に遠賀郡内4町や商工会、日本政策金融公庫と提携して発足させた「おんが創業支援協議会」におきましては、セミナー、創業塾を中心に創業支援を進めた結果、予想以上の実績を上げることができました。

また、3年目を迎えた「おんしん未来創世塾」では、新たな塾生を迎え、実践的な経営知識の習得とともに、地域の若手経営者同士のネットワーク作りを支援してまいりました。地域の明日を担う若手経営者の輪は、着実に広がっております。

遠賀信用金庫で公的年金をお受取りいただいているお客様を会員とする「おんしん おむすび会」では、地域の皆様の「結び」を深める活動に注力してまいりました。「ふれあい旅行」をはじめ、博多座や博多新劇座の観劇、そば打ちやクリスマスツリー作りなど、多くの会員の皆様にお楽しみいただきました。お陰様で、会員数は順調に増加しております。

平成27年度の決算につきましては、大変厳しい環境下ではございましたが、当期純利益832百万円と高い水準を確保することができました。ご預金に対するご融資残高の割合である預貸率は60.44%で、引き続き業界平均を大きく上回っております。金融機関の健全性を示す自己資本比率は14.89%と、国が定める基準(4%)をはるかに超えております。

会員の皆様には、本年度も業界の最高水準である8%の配当をさせていただくことになりました。

遠賀信用金庫は、「スモール イズ ナイス」および「利回りより身の回り」の合言葉の下、小さいからこそ可能な「素早い決定」「素早い対応」「手作りの心のこもったサービス」を実践し、地域に貢献し、地域の皆様のご期待に応えるべく、役職員一丸となって懸命に努力してまいります。

今後とも、遠賀信用金庫に対し格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げ、皆様のご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶といたします。

平成28年7月